

資源がめぐる真ん中に。

**DOWA**

証券コード：5714



第122期 中間報告書 ∷ 株主のみなさまへ

# BUSINESS REPORT

2024 / 12 / Vol.68

## 2024年度（2025年3月期） 中間期の連結経営成績について

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2024年度（2025年3月期）中間期における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループの事業の状況につきましては、自動車の生産が低調であったことから、当社の自動車関連製品及びサービスの受注は減少しました。情報通信関連製品は需要の回復に伴い販売が増加しました。また、新エネルギー関連製品の販売は当中間期において調整局面となりました。環境・リサイクル関連サービスは廃棄物処理の受注が堅調でした。相場環境につきましては、前年同期と比較して平均為替レートは円安ドル高となりました。また、金、銀、銅及び亜鉛の平均価格は上昇し、PGM（白金族金属）の平均価格は下落しました。電力代等のエネルギーコストは前年同期と比較して減少しました。

これらの結果、当中間期の売上高は前年同期比4.9%減の3,525億円、営業利益は同50.5%増の214億円、経常利益は同23.7%増の269億円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は同55.6%増の205億円となりました。

当社グループは、今後も企業価値のさらなる向上に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

代表取締役社長 関口 明



## 2024年度中間期

### 売上高

3,525億円

(前年同期比 △4.9%)

### 営業利益

214億円

(前年同期比 +50.5%)

### 経常利益

269億円

(前年同期比 +23.7%)

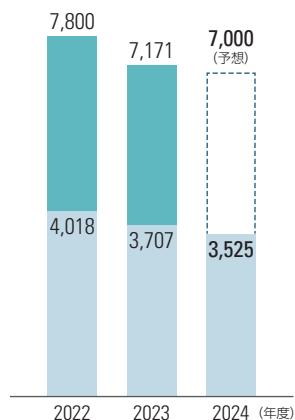
### 親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

205億円

(前年同期比 +55.6%)

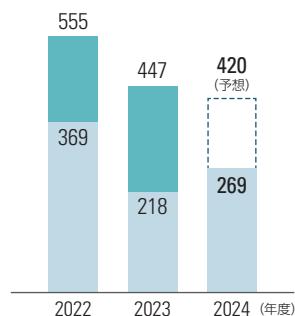
#### 売上高

■ 中間期 ■ 通期 (単位：億円)



#### 経常利益

■ 中間期 ■ 通期 (単位：億円)



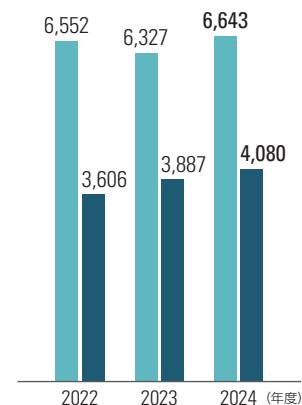
#### 親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益

■ 中間期 ■ 通期 (単位：億円)



#### 総資産／純資産\*

■ 総資産 ■ 純資産 (単位：億円)



※2024年度の総資産および純資産については、中間期実績を記載しています。

# DOWAメタルテック 暮らしの進化と脱炭素の両立

## DOWAの金属-セラミックス基板事業

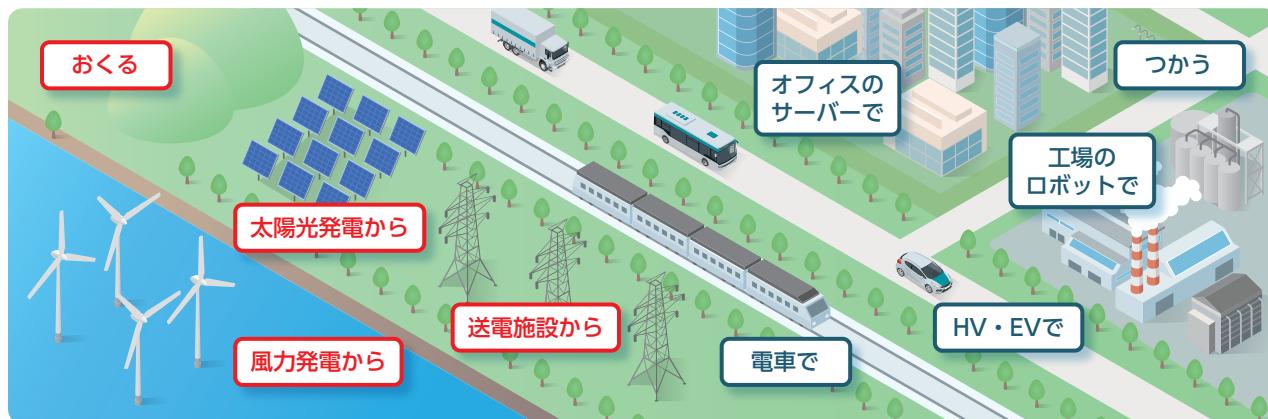
### 電化・デジタル化の進展による電力需要の高まり

私たちの暮らしは、自動車の電動化・高機能化やAIといったデジタル技術の普及などにより、日々便利になってきています。世界的にも電化・デジタル化は進展しており、世界の電力需要は今後も増加していくことが見込まれています。日本でもロボットによる工場自動化、データセンターの建設、HV・EVの普及など電化・デジタル化が進んできています。

### 電力の効率的な利用と脱炭素を支える「パワーモジュール」

電力需要が増える中、電力を効率的につかうことが重要なため、電気を効率よく「おくる」「つかう」などの役割を担う「パワーモジュール」という部品の需要が高まっています。また、脱炭素にむけた取り組みとして、発電時にCO<sub>2</sub>を発生させない風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギー発電が推進されており、これら発電装置にも「パワーモジュール」が搭載されています。

「パワーモジュール」は、風力発電装置・太陽光発電装置から電気を「おくる」ときの電力変換や、自動車・各種機器で電気を「つかう」ときの電力調整などを行います。「パワーモジュール」は発電装置ごと、使用機器ごとに搭載されるため、HV・EVの普及や再生可能エネルギー発電の広がりに伴って需要の拡大が期待されます。

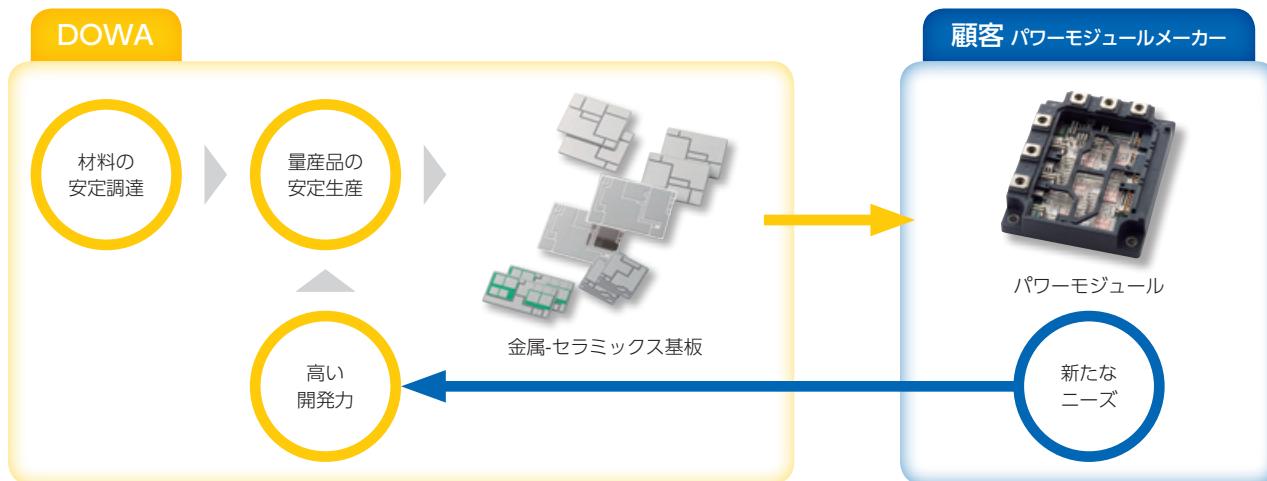


## ○ パワーモジュールに使われるDOWAの金属-セラミックス基板

需要が拡大しているパワーモジュールには、DOWAの金属-セラミックス基板が使用されています。

### DOWAの金属-セラミックス基板の強み

顧客ニーズに応える高い開発力を基盤として、長年にわたり蓄積してきた精密加工技術を活用し、量産品の安定生産を実現しています。また、基板材料メーカーとの協業により、高品質な材料を安定的に調達できるサプライチェーンを築いています。これらの取り組みを通して、お客様と強固な信頼関係を構築しています。



### 今後の取り組み

DOWAグループは、中期計画2024において「自動車」「情報通信」「環境・エネルギー」「医療・ヘルスケア」の4分野を成長市場と位置付け、各分野での事業拡大を推進しています。このうち、パワーモジュールは「自動車」「情報通信」「環境・エネルギー」の3分野に大きく関わる製品です。

パワーモジュールの需要拡大を受けて、現在、金属-セラミックス基板を製造するDOWAパワーデバイス（長野県塩尻市）において、増産投資を推進し、事業の一層の強化に取り組んでいます。



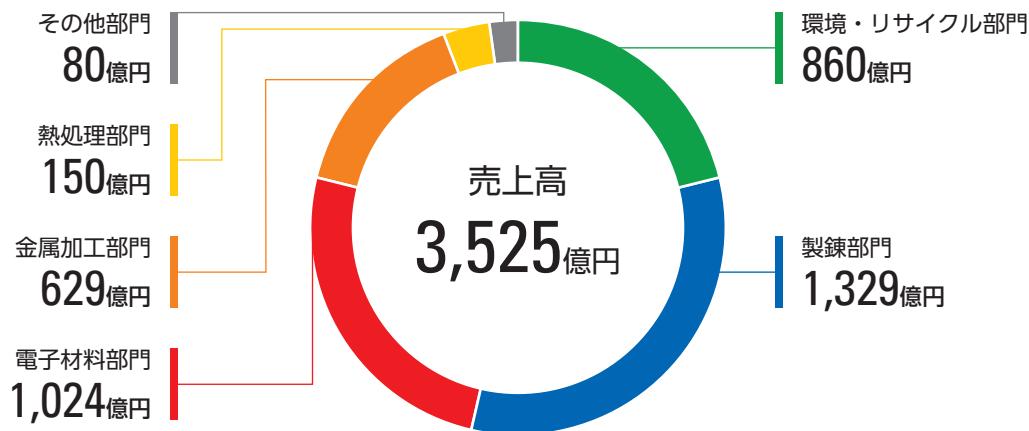
DOWAパワーデバイス (株)

当社はこれからも高品質で安定した製品の提供を通じて、豊かな社会の創造に貢献していきます。

## 部門別の営業状況

### 部門別連結売上高構成 (2024年度中間期)

※各部門の売上高には、連結調整による消去分548億円を含んでいます。



※億円未満切り捨て

### 環境・リサイクル部門



### 2024年度中間期



焼却処理プラント

廃棄物処理事業では焼却の処理量及び処理単価は堅調に推移しました。また、熔融・再資源化の処理量は増加しました。土壌浄化事業では土壌浄化の受注が堅調に推移しました。また、不燃性廃棄物の再資源化の処理量は前年同期並みとなりました。リサイクル事業では当社製錬所向けのリサイクル原料の集荷量は堅調に推移し、家電リサイクルの処理量は減少しました。また、平均為替レートが前年同期比で円安ドル高となり、金及び銅の平均価格が上昇したことが業績に寄与しました。東南アジア事業では廃棄物処理の受注が増加しました。

## 製錬部門



## 2024年度中間期

● 売上高  
**1,329億円** (前年同期比  $\triangle 28.2\%$ )

● 経常利益  
**122億円** (前年同期比  $+28.6\%$ )



PGMリサイクルプラント

貴金属銅事業ではすずの生産量が増加し、金、銀及び銅の生産量は減少しました。PGM事業ではPGMの平均価格が前年同期比で下落した影響を受け、使用済み自動車排ガス浄化触媒の集荷量が減少しました。また、デリバティブ評価益を計上しました。亜鉛事業では亜鉛の生産量は増加しました。また、電力代等のエネルギーコストは減少しました。加えて、製錬原料の購入条件やヘッジコストが改善しました。一方で、亜鉛の棚卸資産の簿価切下げによる損失幅は拡大しました。営業外損益では海外亜鉛鉱山にかかる収益が減少しました。

## 電子材料部門



## 2024年度中間期

● 売上高  
**1,024億円** (前年同期比  $+22.0\%$ )

● 経常利益  
**12億円** (前年同期比  $\triangle 27.3\%$ )

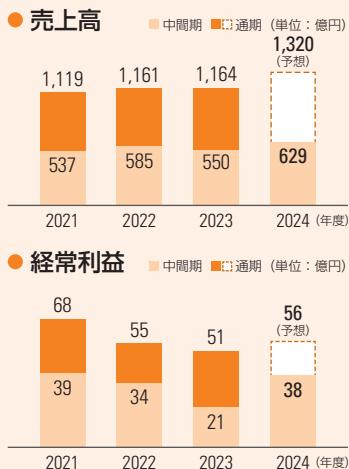


銀粉

半導体事業ではウェアラブル機器向け近赤外LED及び受光素子 (PD) の販売は低調に推移しました。電子材料事業では太陽光パネル向けの需要は当第1四半期においては堅調だったものの、当第2四半期において調整局面となったことから、銀粉の販売は前年同期並みとなりました。また、半導体事業と電子材料事業では、平均為替レートが前年同期比で円安ドル高となったことが業績に寄与しました。機能材料事業では磁性粉の販売が低調に推移しました。営業外損益ではサンプル収入が減少しました。また、当中間期末にかけて為替相場が円高に推移したことを受けて、外貨建債権の為替換算差損が拡大しました。

## 部門別の営業状況

### 金属加工部門



### 2024年度中間期

● 売上高  
**629億円** (前年同期比 +14.4%)

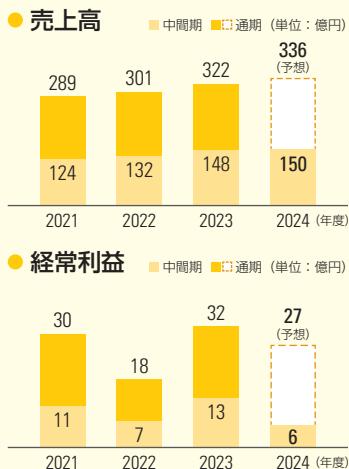
● 経常利益  
**38億円** (前年同期比 +78.6%)



伸銅品

伸銅品事業では自動車の生産が低調であったことから、自動車関連製品の販売は前年同期を下回りました。情報通信関連製品の販売は需要の回復に伴い増加しました。また、銅の平均価格が当第1四半期末にかけて上昇したことが業績に寄与しました。めっき事業では自動車向けの需要が低調に推移しました。回路基板事業の販売は堅調に推移しました。一方で、原材料費などが上昇しました。

### 熱処理部門



### 2024年度中間期

● 売上高  
**150億円** (前年同期比 +0.9%)

● 経常利益  
**6億円** (前年同期比 △51.4%)



CO<sub>2</sub>排出を減らした次世代熱処理炉

熱処理事業では国内の自動車生産が低調であったことから、熱処理受託加工の受注は減少しました。また、販管費等のコストが増加しました。加えて、前年同期比で一時金収入が減少しました。工業炉事業ではメンテナンスの受注が増加しました。

## 創業140周年 ～ 当社の循環型ビジネスモデルの歩み ～

当社は2024年9月18日に創業140周年を迎えました。当社の特長である循環型ビジネスモデルの形成につながる歴史を振り返ります。

循環型ビジネスモデルとは・・・ 資源循環を直接的に担う事業と循環型社会の構築に寄与する素材・技術を提供する事業を併せ持つ、当社独自のビジネスモデルのことです。

### 創業期 (1884年～)

#### ～製錬技術の基盤確立～

当社は、1884年に明治政府から小坂鉱山の払い下げを受けて創業しました。創業後まもなく銀の鉱石が枯渇し経営危機に陥りましたが、「黒鉱」と呼ばれる製錬が難しい鉱石から金属を回収する技術を開発し、現在へとつながる製錬技術の基盤を構築しました。

### 発展期 (1945年～)

#### ～川下分野への事業展開～

戦後～高度経済成長という時代の変化を受け、当社も電子材料・金属加工・熱処理などの川下分野へ事業を展開しました。また、製錬技術・インフラを活用して環境・リサイクル事業を開始しました。

### 転換期 (1970年～)

#### ～鉱山事業中心からの脱却～

1985年のプラザ合意を契機とする急激な円高ドル安により、国内鉱山は急速に経営が悪化し、閉山を余儀なくされました。立て直しに向けて事業の多角化を進めたものの奏功しなかったことから、2000年に5つのコア事業に経営資源を集中投下することを決定。これにより、循環型ビジネスモデルの原型が形成されました。

### 成長期 (2000年～)

#### ～循環型ビジネスモデルの強化～

業界に先んじてリサイクル製錬への転換を行ったことで、環境・リサイクル事業と製錬事業の連携強化が進みました。また、各事業における海外展開や成長分野への投資を積極的に実施し、各事業の収益力が向上しました。これらにより、循環型ビジネスモデルがより強固なものとなりました。

### これから

#### ～社会課題の解決にむけた貢献～

気候変動対応やサーキュラーエコノミーなど、社会課題はますます多様化・複雑化しており、非鉄金属が果たす役割はさらに重要になっています。当社は循環型ビジネスモデルを活かし、資源循環と優れた製品・サービスの提供を行い、社会課題の解決に貢献していきます。

### 祖業は鉱山・製錬事業

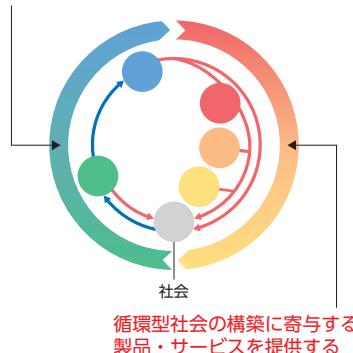


### 国内鉱山の閉山を受けて事業を多角化するも、中核は製錬事業



### 5つのコア事業による循環型ビジネスモデルを形成

リサイクルにより資源を循環させる



## 取締役



代表取締役会長  
山田 政雄



代表取締役社長  
関口 明



取締役  
品質保証、  
環境・安全担当  
飛田 実



取締役  
技術、事業開発、  
知財担当  
菅原 章



取締役  
人事部長  
総務・法務担当  
片桐 敦



取締役  
経営企画部長  
経理、財務担当  
細野 浩之



社外取締役  
小泉 淑子



社外取締役  
佐藤 公生



社外取締役  
柴山 敦



社外取締役  
山口 純子

## 監査役



監査役（常勤）  
福澤 元



監査役（常勤）  
堤 あづさ



監査役（非常勤）  
大庭 浩一郎



監査役（非常勤）  
小室 真吾

## 執行役員

執行役員  
DOWAエコシステム（株）  
代表取締役社長 矢内 康晴

執行役員  
DOWAサーモテック（株）  
代表取締役社長 加川 康樹

執行役員  
DOWAメタルマイン（株）  
代表取締役社長 福田 健作

執行役員  
DOWAテクノロジー（株）  
代表取締役社長 猪股 寛成

執行役員  
DOWAエレクトロニクス（株）  
代表取締役社長 鈴木 健彦

執行役員  
DOWAマネジメントサービス（株）  
代表取締役社長 若林 英一

執行役員  
DOWAメタルテック（株）  
代表取締役社長 鬼王 孝志

## 会社概要

創業	1884年9月18日
設立	1937年3月11日
資本金	364億37百万円
DOWAグループの社員数	約8,000人
主な事業内容	環境・リサイクル事業 製錬事業 電子材料事業 金属加工事業 熱処理事業

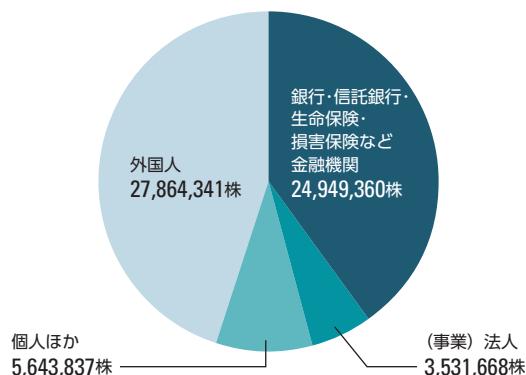
## 株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済み株式の総数	61,989,206株
株主数	9,124名

## 主要子会社

DOWAエコシステム (株)	環境・リサイクル事業
DOWAメタルマイン (株)	製錬事業
DOWAエレクトロニクス (株)	電子材料事業
DOWAメタルテック (株)	金属加工事業
DOWAサーモテック (株)	熱処理事業
DOWAテクノロジー (株)	技術サポート
DOWAマネジメントサービス (株)	事務サポート

## 所有者別株式分布状況



## 大株主

	持分比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	17.19%
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	8.81%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6.18%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	4.75%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	3.59%
藤田観光株式会社	3.12%
全国共済農業協同組合連合会	2.81%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NON TREATY CLIENTS ACCOUNT	2.30%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	1.93%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	1.82%

当社は自己株式1,842千株を保有しており、持分比率については自己株式を控除しています。

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
公告方法	電子公告 ( <a href="https://hd.dowa.co.jp/">https://hd.dowa.co.jp/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
ホームページアドレス	<a href="https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/">https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/</a>
株式に関するお手続き よくあるご質問	<a href="https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal">https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal</a> QRコードからもアクセスいただけます。  (「QRコード」は、(株)デンソーウェブの登録商標です。)



## DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <https://hd.dowa.co.jp/>

表紙撮影場所 DOWA IPクリエイション (株)

